

『源氏物語』の心を読む ～若菜(わかな)下の巻・上～

開講計画

全11回／各90分

回	日付	曜日	10:30～12:00
1	9/13	水	柏木、女三の宮を恋慕する
2	9/27	水	柏木、代わりに猫を愛撫し、勤められる真木柱には無関心
3	10/11	水	紫の上、出家を願う
4	10/25	水	源氏、紫の上も同行し、住吉に願果たしの参詣をする
5	11/8	水	紫の上、女一の宮を愛育し、源氏の夜がれを紛らわす
6	11/22	水	源氏、女三の宮主催の、朱雀院の五十の賀を計画
7	12/13	水	六条院の女君たちの演奏会
8	1/17	水	源氏の女君達、花に喩えられる
9	1/31	水	源氏、琴を論ず
10	2/7	水	紫の上、三十七歳の厄年
11	2/14	水	紫の上、再び出家を願う

受講料

17,600円(教材費別)

定員

35名

作品に感動するひとときを、心の糧(かて)にしましょう

女三の宮を思う柏木は、垣間見たときに見た猫を入手して、愛撫するほどです。四年後、冷泉帝の譲位、明石女御腹皇子の立坊と、女御の声望がたかまります。紫の上は、対の上として卑下する日常、一方の女三の宮は二品に叙せられる勢いです。出家したいと言いつつ紫の上も同行し、源氏は心機一転、住吉参詣を思い立ちました。女三の宮の夫として源氏が留守のとき、紫の上は義理の祖母として、女一の宮の愛育に気を紛らわしています。源氏は帝に気を配り、朱雀院の御賀のために女三の宮に琴の秘曲を伝授し、六条院の女性演奏会を繰り広げ、紫の上の心の中は見落とされていきます。

講師

本学名誉教授

うめの

こ

梅野 きみ子

テキスト・教材

初回、教室にてテキストを販売します。お持ちでない方は、講座申込み時に注文してください。テキスト以外に、他の本の持ち込みも可能です。

①宮内庁書陵部蔵青表紙本『源氏物語 若菜下』

編者 石田穰二 新典社 1,980円+税

②仮名変体集 編者 伊地知鐵男 新典社 350円+税

③新潮日本古典集成『源氏物語 五』

校注者 石田・清水 新潮社 3,630円+税

※①は必須、②③は任意 ※2023年1月現在